

ポイントメイク落とし

ファンデーションや日焼け止めだけで、
アイメイクをされていない場合でもシンプルバージョンで
目元、口元の汚れは落とします。

目元は特に皮膚が薄く繊細な場所。
丁寧さはもちろん、手際の良さ、大胆さも同時に必要です。

目元触るのが苦手・・・という方もいらっしゃると思いますが、
しっかり落とさず、メイクを残したままの状態だと本末転倒です。

この機会に、どんなメイクの方がいらしてもOK!! な状態で
お迎えできるようにしましょう。



前もって準備しておくこと

- ✓コットン3枚（水分加えてから温めておいてもOK）
- ✓綿棒1～2本（湿らせる）
- ✓練習用の人形
- ✓クレンジング剤
- ✓ゴミ箱（ビニールの音がならないように）
- ✓隠し撮りされてもOK!!な凛とした姿勢



ポイントメイク落とし工程表

コットン、綿棒の準備

- ・コットンを湿らせ溶剤を付ける
- ・必要に応じて綿棒も湿らせておく
- ・ラメ、マスカラなどを落とす時は母指の甲側に溶剤をのせておく

目元・口元へコットンを置く

- ・置く前に必ずお声かけする
- ・左右目元に置く
- ・口元に置く

口元リップのメイクオフ

- ・唇が開かないように角度に注意
- ・口角に汚れが残っていないか確認

目元シャドウのメイクオフ

- ・眼球を押さないよう圧加減に注意
- ・ラメなど残っていないか必ず確認

目元マスカラのメイクオフ

- ・溶剤が少なすぎると落ちにくく、肌に負担がかかるので注意
- ・目じりの際、下瞼まで確認すること

お客様のメイクをよく観察すること

コンサルテーションなどでお話ししながら、もしくはベッドに寝ていただいてから、どの程度の拭き取りが必要なのか観察するところから始まります。※これくらいの濃さだったらこのくらいの時間だろうな。綿棒はいらぬ。落とす始めてから落ちない・・時間無いと焦ることがなくなる

- エクステの有無
- アートメイクの有無
- マスカラのボリューム
- アイラインの濃さ
- アイシャドウの濃さ

敏感肌の方への対応

一番大切なのは、ヒアリングです。クライアントの不安を「このセラピストなら安心」と思っていただけのようにしっかりコミュニケーションをとりましょう。

特に目元の皮膚は、一番薄いので赤みがでたり、ひりつきを感じたりしやすいところでもあります。

今までどのようなトラブルがあったのか？ どんな商材でどのようなになったのか？ 月の周期や季節的なところはどうか？ そして、今現在の状態はどうか？

- ▶ 目元にコットンを置く工程を無くし、4ラインの拭き取りから始める
- ▶ 溶剤の量を少し多くし、肌への摩擦の負担を減らす
- ▶ 何度も同じところを拭き取らない
- ▶ お声かけを忘れない



ポイントメイク落とし パーフェクションチェック

※“時々”や“大抵やっている”場合にはチェックせず、“いつも”や“必ず”の場合のみチェックしてください。

◆目元・口元へコットンを置く

- コットンの水分量が適量である
- 目元に置く際の合図を必ずしている
- 目元に置く際の丁寧さを必ず意識している
- コットンにしわがないように目元口元に置いている
- 目頭のくぼみを意識してフィットさせている
- 口元のと真ん中へコットンを置けている
- 口元へ馴染ませる際の指の腹は唇全体にフィットしている

◆口元のお拭き取り

- 唇の皮膚を感じながらスライドしている
- 汚れた面を内側にし、手早く四つ折りできている
- 添え手は適切な位置で、しっかり口角を上げている
- 下唇・上唇の拭き取りの際、リップの取れ具合を確認できている
- 口角の際までしっかり拭き取りができている

◆目元のお拭き取り

- スライドの際、目じりまで通り抜けているのを確認できている
- 4ラインの拭き取りの際、アイホールのスライドの方向が適切である
- 4つ折りでアイホール全体のシャドウを落とす際、眼球を押さえつけず、しっかりとシャドウが落ちているのを確認している
- アイライン5mmの拭き取りの際、しっかりキワまで落とせている
- 綿棒でマスカラを落とす際、溶剤は適量である
- 必要に応じて手の甲側に溶剤を出して準備している
- どんなに濃いアイメイクでも最終的に90%は落とせている
- 落とせなかった分はその後の拭き取りの際に確認することをしっかり意識できている
- 時間を考えながら、丁寧に焦らず進められている
- 「ゆっくり丁寧」と「手際良さ」の使い分けができている